

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成24年6月

熊本市（熊本地区）（熊本県）

全体総括

○計画期間：平成19年5月～平成24年3月（4年11月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

- ・本市の中心市街地は、商店街や市民団体等の努力もあり、一定のにぎわいは維持しているものの、商店街歩行者通行量や小売販売額の減少、支店機能の統合・流出等によるオフィスの空室率の高止まり、さらに長期的には居住人口の減少も見られ、都市活力の低下が懸念されていた。
- ・加えて、平成23年春の九州新幹線全線開業後、広域的な交通利便性が向上することにより、他都市から本市を訪れる観光客の増加が期待される反面、九州内の各都市間や都市圏間の競争が激化することも予想され、本市が、これらの時代変化に的確に対応し、持続的に繁栄していくために、中心市街地の更なる活力向上が喫緊の課題となっていた。
- ・このため、基本計画においては、中心市街地の現状と課題等を踏まえ、活性化を図るための施策として、3つの基本方針及びそれぞれの数値目標を定め、これらに寄与する52事業に取り組んできた。
- ・その結果、「歩行者通行量」は目標に達しなかったものの、「熊本城入園者数」、「市電利用者数」は、目標を達成した。「歩行者通行量」についても、平成23年度は前年度から大幅に増加し、平成18年度の基準値を上回ることができた。
- ・特に、「本丸御殿復元整備事業」、「熊本城築城400年記念事業（築城400年記念祭負担金）」等のハード・ソフト、両面からの取り組みにより、熊本城入園者数は大幅に増加し、「本丸御殿復元整備事業」が完成した平成20年度には、城郭では全国一となる約220万人を記録した。
- ・また、平成23年3月5日に開業した「桜の馬場 城彩苑」は、開業後の1年間で約140万人が訪れ、まちなかの新たなにぎわい創出に大きく寄与している。
- ・さらに、熊本駅周辺においては、平成23年3月に九州新幹線が全線開業し、新熊本地方合同庁舎A棟の完成、情報交流施設「くまもと森都心プラザ」もオープンするなど整備が進んだ。
- ・九州新幹線全線開業は、関西方面などからの観光客の増加をもたらし、歩行者通行量、熊本城入園者数、市電利用者数とも前年度を上回るなど、中心市街地活性化の後押しとなっている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

- ・掲載事業は計画期間中に全て着手し、再開発事業など一部に遅延がみられたものの、概ね順調に進捗し、全52事業のうち、計画期間内に完了した事業が25事業、2期計画へ引き継ぐこととなった事業が27事業という結果となった。
- ・数値目標に関しては、1で述べたとおり、「熊本城入園者数」と「市電利用者数」は、目標を大幅に上回って達成し、「歩行者通行量」も目標を達成することはできなかったが、最終の平成23年度は前年度から増加し、基準年である平成18年度を上回ることができた。
- ・また、「桜の馬場 城彩苑」の開業後、熊本城から中心商店街への人の流れを調査したところ増加がみられ、熊本城と中心商店街との回遊性が向上した。
- ・さらに、本市を訪れた観光客を対象として熊本商工会議所が実施した満足度調査の結果を見ても、約92%の人々が「満足」と回答、「期待を上回った」との回答も約86%あった。ともに全国平均を大幅に上回っており、事業の効果を示しているといえる。

- ・以上のことから、計画全体としては一定の効果が得られ、中心市街地の活性化は図られたと考えられる。

3. 活性化が図られた要因(熊本市としての見解)

- ・基本計画の計画期間内に、熊本の歴史と文化を象徴する熊本城の魅力向上に寄与する「熊本城本丸御殿」や「桜の馬場 城彩苑」、また、陸の玄関口である熊本駅周辺での交流拠点として「くまもと森都心プラザ」など、人を惹きつけることができる魅力ある施設がオープンしたことに加え、「ストリート・アート・プレックス」や「光のページェント」などのイベントについても、民間主体を含め多数実施された。
- ・このように、基本計画に基づくハード整備やソフト事業はもとより、計画に掲載されていない、例えば「くまもとお城まつり」など、四季折々を通したさまざまなイベントなど、行政と民間が一体となってにぎわいづくりに取り組んだことに加え、九州新幹線全線開業によって、博多・熊本間の利用者が、前年比 37%増の 896 万人となるなど、関西方面からの観光客などが増加した効果などが総合的に機能したことにより、中心市街地活性化につながったと考えられる。

4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組を振り返ってみて(協議会としての意見)

- ・基本計画の3つの数値目標のうち、「熊本城入園者数」と「市電利用者数」の2つについて目標を達成し、平成 20 年度には熊本城の入園者数が城郭で全国一になるなど、大きな成果が上がった。
- ・特に「桜の馬場 城彩苑」の整備では、行政と民間が一体となって取り組んだ結果、開業後 1 年間の入場者数が約 140 万人という数字となって表れ、まちなかに新たなにぎわいを生み出すことができた。
- ・ただ、「歩行者通行量」については、残念ながら目標を達成することができず、今後は、熊本城や城彩苑と中心商店街との回遊性の向上に向けた取り組みが重要であると考えている。
- ・このような状況の中、今年 3 月に認定を受けた 2 期計画においては、数多くの事業が新たに盛り込まれ、事業完了時には中心市街地の活性化に大きく寄与することが期待できる内容となっている。今後も、2 期計画で掲げた目標の達成に向け、引き続き官民一体となった協力体制のもと、積極的に取り組んでいくことが肝要であると考えている。

5. 市民意識の変化

- ・来街目的は、買い物の割合が減り、食事や展覧会などの催し物の割合が増えている。

平成 15 年及び平成 23 年に本市が行った市民アンケート調査によると、中心市街地に来る目的はいずれも買い物が一番多いが、その割合は平成 15 年の 84. 3%から、平成 23 年の 75. 5%と減少している。

一方、食事の割合が 39. 6%から 53. 9%、展覧会等の催し物が 17. 3%から 30. 3%、行政や銀行等の手続きが 18. 8%から 30. 5%と大きく増加した。

このことから、郊外への大型店の出店などによる買物客の減少がうかがえるが、食事や展覧会等の催し物などについては、依然として高いニーズがあることが分かる。

「中心市街地への来街目的」(全世代)

	買物	食事	遊び	何となく ブラブラ	展覧会等 の催し物	趣味等 の 習い事	ボランテ ィア、NPO 等の活動	行政や 銀行等の 手続き
平成15年	84.3%	39.6%	29.6%	13.6%	17.3%	4.8%	1.9%	18.8%
平成23年	75.5%	53.9%	25.4%	17.5%	30.3%	8.4%	3.4%	30.5%

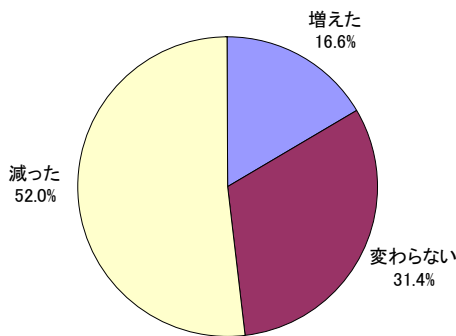
(資料)平成15年及び平成23年 市民アンケート調査、熊本市(複数回答)

- ・中心市街地に出かける回数は前回調査とくらべやや増えている。

中心市街地への来街頻度が「増えた」、または「変わらない」と回答した割合は、48% (H14: 16.6%+31.4%)から 50.6% (H23: 17.1%+33.5%)になっており、前回調査に比べて出かける回数が「減った」と回答した人の割合を上回る結果となっている。

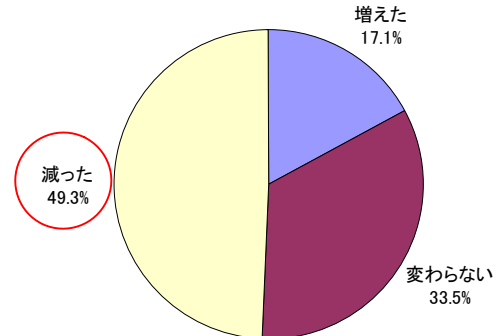
出かける回数の増減 (全世代)

(平成14年調査)



(資料) (財) 地域流通経済研究所
「どうなる中心市街地」(平成14年7月)

(平成23年調査)



(資料) 熊本市の中心市街地に関する市民
アンケート調査 (平成23年10月)

6. 今後の取組

- ・今後は、目標を達成できなかった基本方針1については、遅延している事業について効果の発現に向けて着実に進めて行く必要があるほか、喫緊の課題となっている空き店舗対策についても適切に対応していくことが求められる。このため、2期計画においても、引き続き再開発事業への積極的な支援を行うとともに、新たに「空き店舗等総合活用事業」などを実施することとしている。
- ・基本方針2、3については、目標を達成したが、それぞれにおいて継続的な観光客の誘客や高齢化の進展といった新たな課題への対応が求められることから、引き続き取り組みを進める必要がある。2期計画では、「熊本城第Ⅱ期復元整備事業」や「電停改良事業」などを実施することとしている。
- ・また、それぞれの基本方針における取り組みを連動させることで、中心市街地の回遊性向上を図り、基本方針2、3の成果を基本方針1へとつなげる必要がある。
- ・このため、平成23年度に2期計画を策定し、平成24年3月に内閣総理大臣の認定を受けたところであり、今後も引き続き中心市街地の活性化に取り組んでいく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
人々が活発に交流しにぎわうまち	中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量	309,381人/日 (平成18年度)	340,000人/日 (平成23年度)	319,550人/日※	平成23年8月	<u>b</u>
城下町の魅力があふれるまち	熊本城年間入園者数	825,807人/年 (平成17年度)	1,000,000人/年 (平成23年度)	1,589,925人/年	平成23年度	A
誰もが気軽に訪れることができるまち	市電の年間利用者数	9,160,000人/年 (平成17年度)	9,280,000人/年 (平成23年度)	10,194,381人/年	平成23年度	A

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

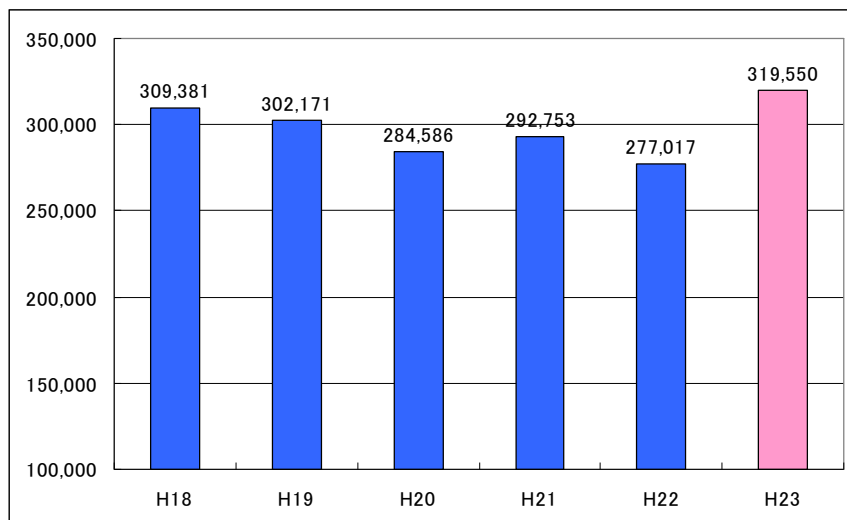
※中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量の最新値は、調査時期の変更に伴い季節調整を行っている。

個別目標

目標「人々が活発に交流しにぎわうまち」

「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P51～P59 参照

1. 調査結果の推移



年度	(単位：人)
H18	309,381 (基準年値)
H19	302,171
H20	284,586
H21	292,753
H22	277,017
H23	319,550 (目標 340,000)

※調査手法；計測地点 28 か所における通行量の 2 日間（金曜日と日曜日）の平均値

平成 23 年度は 8 月に行った簡易調査と 10 月に行った調査の比較による推計値

※調査月；平成 23 年 8 月

※調査主体；熊本市、熊本商工会議所

※調査対象；歩行者及び自転車（中学生程度以上）

○本計画において、下通アーケード改修事業、中心市街地活性化推進事業などを行い、一定のにぎわい創出と集客効果はあったものの、市街地再開発事業の遅延や、空き店舗の増加による集客力の伸び悩み、さらには熊本城から中心商店街や周辺地域への十分な回遊効果が発現しなかったという課題があり、基本方針 1 に係る目標の達成はできなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 下通アーケード改修事業〔実施主体：下通二、三、四番街各商店街振興組合〕

支援措置名及び支援期間	戦略的中心市街地中小商業等活性化支援事業費補助金、平成 20 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度
事業概要	アーケードの天井高を高くし、天空面積を広げ、好天時には開放感を演出できる可動式天蓋への改修を行う。併せて、ストリートファニチャー（休憩施設）やドライミスト発生装置などを設置し、快適な空間を創出する。さらに、ベビーカーや車椅子の無料貸し出し、公共交通機関等で利用できる交通券の発行等ソフト対策も実施するもの。
目標値・最新値	(目標値)通町筋周辺地区、桜町周辺地区の2つの核の機能向上と相まって、歩行者通行量 15,000 人増加。 (最新値)最新の調査では、アーケード周辺の歩行者通行量が整備前と比較して、約 25,000 人増加した。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	アーケード改修等により一定の成果は上がったが、相乗効果を見込んでいた再開発が未完了となっている。
計画終了後の状況（事業効果）	天空面積の拡大に伴い明るく開放感のある空間となり、ストリートファニチャーやドライミストでは家族連れや高齢者の憩いの場として活用されている。

	る。また、ベビーカーや車椅子の無料貸し出し、交通券発行等のソフト事業の実施により、「人にやさしい街」としての快適な空間が形成されたことにより、実施後の調査(平成 23 年 10 月)では、アーケード周辺の歩行者通行量が増加した。
事業の今後について	実施済み。 今後、隣接する下通新天街アーケードの照明 LED 化や路面改修を行う予定である。

②. 地域創造支援事業中心市街地活性化推進事業〔実施主体：ストリート・アート・フェックス実行委員会、商工会議所〕

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金、平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 17 年度～
事業概要	ジャズ、大道芸等によるまちの文化、芸術の発信等を行い、日常的に持続的に常に新しいパフォーマンスアートを提供するもの。
目標値・最新値	(目標値)設定なし (最新値)平成 24 年 3 月末までに通算 168 回開催され、特に、春(大道芸)、夏(JAZZ OPEN)、秋(EXTRAVAGANZA)の 3 大イベントにおいては、過去 5 年間の平均で約 43,000 人を集客している。
達成状況	-
達成した(出来なかった)理由	-
計画終了後の状況(事業効果)	上記のとおり、過去 5 年間の平均で約 43,000 人を集客し、中心市街地のにぎわいを創出している。
事業の今後について	平成 23 年度で事業発足から 10 年が経過し、中心市街地の文化創造とにぎわい創出に大きく貢献しており、今後も、一層のにぎわい創出に向けた事業内容の検討や組織体制の拡充を行いながら継続して実施する。

③. 熊本駅前東 A 地区関連事業〔実施主体：熊本市〕

(A) 熊本駅前東 A 地区市街地再開発事業

(B) 暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅前東 A 地区)

(C) 情報交流施設整備事業(高次都市施設地域交流センター、地域創造支援事業情報交流施設)

支援措置名及び支援期間	(A)市街地再開発事業、平成 17 年度～平成 20 年度 (B)社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業)、平成 20 年度～平成 24 年度 (C)社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)、高次都市施設地域交流センター 平成 20 年度～平成 22 年度、地域創造支援事業情報交流施設 平成 19 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	(A) 平成 17 年度～平成 20 年度 (B) 平成 20 年度～平成 24 年度 (C) 平成 19 年度～平成 23 年度
事業概要	熊本駅前東 A 地区において公共公益施設、商業業務施設、共同住宅等の整備を一体的に行うことにより、にぎわいと人に優しい都市環境の創出を図るもの。
目標値・最新値	(目標値)情報交流施設の利用者を一日あたり約 2,000 人と予測し、このことにより歩行者通行量 4,000 人増加と見込んだ。 (最新値)歩行者通行量は、約 2,400 人の増加。(情報交流施設の利用者

	は、オープン後半年間で 1 日平均約 2,700 人と予測を上回った。)
達成状況	目標未達成(施設利用者数については、予測を上回った。)
達成した(出来なかった)理由	<p>情報交流施設の中で、特に図書館の利用者が想定以上に伸びた。その理由としては、熊本駅前という交通結節点に位置しており、立地条件が良かったことや、駅周辺地区にこれまでなかった大規模図書館が整備されたことにより、想定以上の利用者数の実績が上がったものと推察される。</p> <p>歩行者通行量については見込みを下回る結果となったが、これは、通行量の調査地点が限られていることにより、回遊動向を捕捉しきれなかったと考えられる。</p>
計画終了後の状況(事業効果)	<p>平成 23 年 10 月 1 日に情報交流施設「くまもと森都心プラザ」が先行オープンした。この結果、図書館の利用者等により歩行者通行量が増加し、熊本駅周辺のにぎわいが創出された。</p> <p>また、平成 24 年 3 月 24 日には、熊本駅前東 A 地区市街地再開発事業がグランドオープンした。</p>
事業の今後について	平成 24 年度に清算業務を行う。また、アトリウム・パティオでのイベント開催、エリア・マネジメントによる地域住民や地域団体との連携等によるにぎわいの創出にも取り組むこととしている。

④. 暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅周辺地区)〔事業主体：民間事業者〕

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(熊本駅周辺地区))、平成 22 年度～平成 26 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 29 年度
事業概要	熊本の玄関口にふさわしい魅力ある市街地整備を官民連携して進めるため、医療系専門学校や社会福祉施設等を整備するもの。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量 400 人増加。(200 人×往復) (最新値)定員 720 人の専門学校が開校し、約 560 人が在学していることから、歩行者通行量 1,120 人増加と想定。(560 人×往復)
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	平成 20 年 4 月に A 棟(定員 120 名*4 学年)、平成 21 年 4 月に B 棟(定員 80 名*3 学年)の医療系専門学校が開校した。
計画終了後の状況(事業効果)	上記のとおり 2 棟完成し、医療系専門学校が開校した。このため、市電等を利用して通学する学生により、通行量の増加とにぎわいの創出につながっている。
事業の今後について	平成 25 年度には C 棟(社会福祉施設)、平成 29 年度までに D 棟が竣工予定である。

⑤. 企業立地促進事業〔事業主体：熊本市〕

支援措置名及び支援期間	なし
事業開始・完了時期	平成 11 年度～
事業概要	空きオフィス等への事業所の新設、増設への支援措置を講じるもの。
目標値・最新値	(目標値)800 人の新規雇用により、歩行者通行量 2,800 人増加。 (最新値)1,300 人の新規雇用が生まれたことから、目標値は上回ったと想定。
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	平成 19 年度に制度の拡充を行い、企業誘致を一層促進した。
計画終了後の状況（事業効果）	企業誘致活動により平成 19 年度は 2 件、平成 20 年度は 5 件、平成 21 年度は 3 件、平成 22 年度は 1 件、平成 23 年度は 1 件の企業が中心市街地に進出した。このことにより、中心市街地に約 1,300 人の新規雇用が生まれ、中心市街地のにぎわいを創出した。
事業の今後について	平成 24 年度には更に制度の拡充を行うなど、引き続き企業誘致活動を積極的に行う。

⑥. 市街地再開発事業（花畑地区）〔事業主体：地権者等関係者の協議により決定〕

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等(花畑地区))、平成 22 年度～
事業開始・完了時期	平成 22 年度～
事業概要	中心市街地の核として、周辺の公共空間に併せ良好な市街地環境の形成を図り、新市街との連携強化や回遊性の向上を行うことにより、にぎわいと人々が集える施設を創出する。
目標値・最新値	(目標値)歩行者通行量 8,000 人増加 (最新値)(未完了)
達成状況	未達成
達成した（出来なかった）理由	協議会においては、厳しい経済状況の中、1 期計画期間内に事業フレームの確定に至らなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	-
事業の今後について	協議会においては、将来の魅力あるまちづくりと更なるにぎわいの創出に向け、事業を推進されているところであり、一日も早い事業完了を目指している。

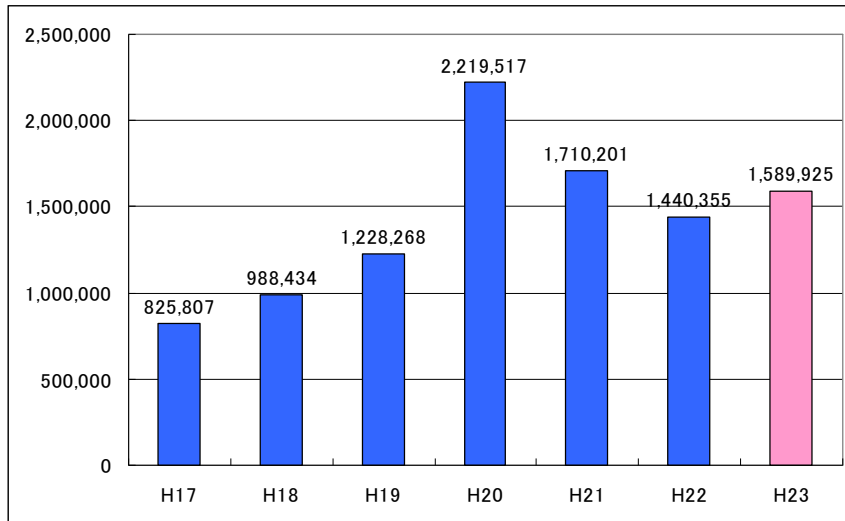
3.今後について

- ・ 2 期計画においては、民間活力を活かした総合的な空き店舗対策などに取り組むとともに、九州中央域の中核を担う行政、業務、文化など都市機能の更なる集積と更新を図ることとし、特に、通町筋・桜町周辺地区においては、核となる商業機能等を充実させることによりにぎわいの再生と回遊性の向上を図り、活力に満ちた一大商業ゾーンを形成する。
- ・ また、安全・安心で快適な歩行空間等の確保など、人々の多様なニーズに対応した機能の充実に努め、人・物・情報の交流でにぎわうまちづくりを進める。

目標「城下町の魅力があふれるまち」

「熊本城年間入園者数」※目標設定の考え方基本計画 P60～P64 参照

1. 調査結果の推移



年度	(単位：人)
H17	825,807 (基準年値)
H18	988,434
H19	1,228,268
H20	2,219,517
H21	1,710,201
H22	1,440,355
H23	1,589,925 (目標 1,000,000)

- ※調査手法；熊本城入場門での入園者数の集計による
- ※調査月；平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月
- ※調査主体；熊本市
- ※調査対象；熊本城の年間入園者数

○本計画において、本丸御殿大広間の復元整備や熊本城築城 400 年祭、さらには熊本城での滞在時間の拡大を図るなどのため「桜の馬場城彩苑」の整備などを行った。平成 20 年度は、熊本城入園者数約 220 万人と日本の城郭で日本一のにぎわいを記録し、基本方針 2 に係る目標は達成した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 地域創造支援事業本丸御殿復元整備事業〔実施主体：熊本市〕

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金、平成 19 年度
事業開始・完了時期	平成 14 年度～平成 19 年度
事業概要	熊本の歴史・文化を象徴する熊本城の本丸御殿の復元整備。
目標値・最新値	(目標値)本事業により、熊本城入園者数 93,000 人増加 (最新値)熊本城入園者数は目標を大幅に超える約 159 万人となり、本事業による効果も 93,000 人を大きく上回ったと想定される。
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	本事業などのハード整備（本丸御殿大広間の障壁画復元や食の体験として往時の藩士料理を再現した熊本城復刻料理本丸御膳の提供などを含む）に加え、熊本城築城 400 年祭などのイベントにより、入園者が大幅に増加したものと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	上記のとおり、入園者数は大きく増加し、にぎわっている。特に平成 20 年度においては、本丸御殿オープン効果により、入園者数において全国の城郭で1位となった。
事業の今後について	実施済み。 今後、熊本城については、「熊本城第Ⅱ期復元整備事業」により、馬具櫓及び続塀などの整備を行うこととしている。

②. 「桜の馬場 城彩苑」関連事業

- (A) 地域創造支援事業 桜の馬場利活用推進事業〔事業主体：熊本市〕
 (B) 高次都市施設 熊本城桜の馬場観光交流施設（仮称）整備事業〔事業主体：熊本市〕
 (C) 熊本城桜の馬場飲食物販施設設置事業〔事業主体：熊本城桜の馬場リテール株式会社〕

支援措置名及び支援期間	(A) まちづくり交付金、平成 20 年度～平成 21 年度 (B) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)、平成 20 年度～平成 22 年度 (C) 戦略的中心市街地商業等活性化支援事業費補助金、平成 21 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	(A) 平成 20 年度～平成 21 年度 (B) 平成 20 年度～平成 22 年度 (C) 平成 21 年度～平成 22 年度
事業概要	観光客などが、熊本城をはじめ熊本の魅力を実感できる施設として、熊本城のエントランス部に、総合観光案内所、歴史文化体験施設、多目的交流施設、飲食物販施設等を整備するもの。熊本の観光地や観光施設を案内することで、回遊性の向上や、滞留時間の延長による宿泊人員の増加などを目指している。
目標値・最新値	(目標値) 設定なし (最新値) 城彩苑の入場者数は、開業後の 1 年間で年間目標の 100 万人を大きく上回る約 140 万人に達した。これは、熊本城入園者数が、平成 22 年度の約 144 万人から平成 23 年度の約 159 万人に増加したことにも大きく寄与したと考えられる。
達成状況	-
達成した（出来なかった）理由	-
計画終了後の状況（事業効果）	上記のとおり、城彩苑の入場者数は、開業後の 1 年間で約 140 万人に到達し、にぎわいを創出した。 中心商店街への回遊性についても、平成 23 年 4 月と同年 9 月に行った観光実態調査を比較すると、熊本城からは約 8%、城彩苑からは約 13% の増加が見られ、城彩苑開業の効果が徐々に表れてきている。
事業の今後について	実施済み。 今後も、熊本城や中心商店街などと連携したイベント等によりにぎわいを創出するとともに、新たに下通アーケードに設置した観光案内所とも連携しながら、さらなる回遊性の向上を図る。

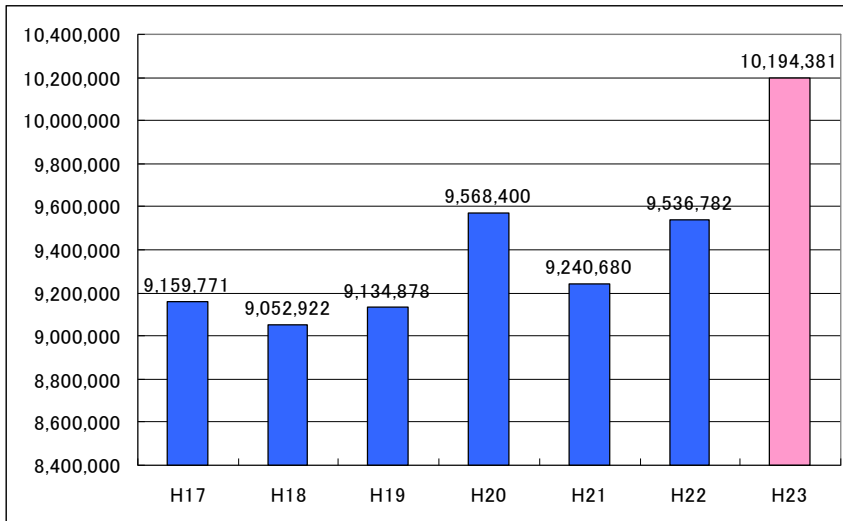
3. 今後について

- 熊本城入園者数は大きく増加し、目標を達成することができたが、このにぎわいを一過性のものにせず、継続的に観光客を惹きつけるよう、今後も更なる取り組みが必要である。
- このため、2 期計画においても引き続き、熊本城の復元整備や昔からのまち割りや歴史的建造物が残る新町・古町地区との一体的な魅力向上を図り、往時の風情が体感できる環境づくりを進める。さらに、熊本城地区内の城彩苑や美術館、伝統工芸館などの歴史・文化施設との連携強化や、通町筋・桜町周辺地区への歩行アクセスの強化などにより、熊本城を中心とした「城下町」としての特色を最大限に活かし、多くの人を惹きつける魅力と活力に溢れた回遊性の高い街並みを形成する。加えて、各種イベント等を通じ地域との暖かな触れ合いを演出するとともに、日本国内のみならず、東アジアに向けた情報発信、観光客・MICE(マイス)の誘致等を行うなど、海外に向けたプロモーション活動も積極的に展開する。

目標「誰もが気軽に訪れることができるまち」

「市電の年間利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P65～P69 参照

1. 調査結果の推移



年度	(単位：人)
H17	9,159,771 (基準年値)
H18	9,052,922
H19	9,134,878
H20	9,568,400
H21	9,240,680
H22	9,536,782
H23	10,194,381 (目標 9,280,000)

※調査手法；現金運賃収入による利用者数（運賃収入/一人当たりの平均運賃）や定期券、プリペイドカード等利用者の合計により算出

※調査月；平成 23 年 4 月～平成 24 年 3 月

※調査主体；熊本市交通局

※調査対象；市電の年間利用者数

○本計画においては、低床式路面電車の導入や魅力ある企画乗車券の販売、市電の均一料金の導入など、ハード・ソフト両面からの取り組み等に加え、熊本城入園者数の増加も寄与していると推測され、基本方針 3 に係る目標は達成した。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 低床式路面電車導入事業〔実施主体：熊本市〕

支援措置名及び支援期間	LRTシステム整備費補助金、平成 20 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度
事業概要	低床式路面電車を導入するもの。
目標値・最新値	(目標値)設定なし (最新値)-
達成状況	-
達成した（出来なかった）理由	-
計画終了後の状況（事業効果）	平成 21 年 4 月に低床式路面電車の運行を開始した。誰もが乗降しやすい市電を走行させることにより、利便性が向上した。
事業の今後について	実施済み。 今後、更に低床式路面電車を導入予定。

②. 地域創造支援事業路面電車優先信号整備事業〔実施主体：熊本市〕

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)、平成 20 年度～平成 22 年度
事業開始・完了時期	平成 20 年度～平成 22 年度

事業概要	市電の優先信号を整備し、所要時間の短縮や定時性の確保を図るもの。
目標値・最新値	(目標値)設定なし (最新値)-
達成状況	-
達成した(出来なかった)理由	-
計画終了後の状況(事業効果)	平成23年3月1日に運用を開始し、整備区間の所要時間が平均30秒短縮したほか、定時性が大きく向上した。
事業の今後について	実施済み。

③. 地域創造支援事業本丸御殿復元整備事業〔実施主体：熊本市〕

支援措置名及び支援期間	まちづくり交付金、平成19年度
事業開始・完了時期	平成14年度～平成19年度
事業概要	熊本の歴史・文化を象徴する熊本城の本丸御殿の復元整備。
目標値・最新値	(目標値)本事業などにより、熊本城入園者数が目標の100万人に達することで、市電利用者数が10,000人増加 (最新値)熊本城入園者数は目標を大幅に超える約159万人となり、市電利用者数も大きく増加していることから、本事業などによる効果も目標値10,000人を大きく上回ったと想定される。
達成状況	目標達成
達成した(出来なかった)理由	本事業などのハード整備に加え、熊本城築城400年祭などのイベントにより、熊本城入園者が大幅に増加したことで、市電の利用者数の増加にも大きな効果をもたらしたと考えられる。
計画終了後の状況(事業効果)	上記のとおり、熊本城入園者数は大きく増加し、市電の利用者数増加にも寄与していると推測される。
事業の今後について	実施済み。 今後、熊本城については、「熊本城第Ⅱ期復元整備事業」により、馬具櫓及び続塀などの整備を行うこととしている。

3. 今後について

- 2期計画においては、九州新幹線の全線開業により観光客等の増加が見込めることや、更なる高齢化への対応などから、電停改良、市電と他の公共交通機関やターミナルとの結節強化、企画乗車券の販売検討など、市電を中心とした公共交通機関の利便性の向上を図るなど、公共交通網の整備に努め、さらには、自転車の走行空間や駐輪場の整備などにより、来街者、高齢者等も利用しやすい交通アクセスの向上を一体的に推進することで、誰もが気軽に訪れることができる環境整備に取り組み、中心市街地の更なる魅力と活力を創出する。